

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

時事新報

第二千七百三十號
明治廿三年七月廿九日 火曜日
舊曆庚寅六月廿三日 (辛亥)
日 出 午前四時四十七分
入 午後六時四十七分
月 出 午前六時四十九分
入 午後八時四十九分
年 出 午前七時五十二分
入 午後九時五十二分
西曆一千八百九十年

時事新報定
時事新報、一年三百六十五日一日も休刊せず其代價運送料廣告料ハ左ノ如シ
一 枚二錢〇二箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓
〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送致スルモノニ限リ有定額ノ外ハ一箇月十五錢ノ郵便料ヲ申受ク
時事新報廣告料減金
一行五號活字廿四字時 一日限 六日以上 七日以上
一 行 二 付 十二號 十一號 十號五號

時事新報

芝居も亦談ず可し

人間社會は地質時代に異なり火の時代には火ばかり水の時代には水ばかりにして天下唯一色に片寄る可らず然るに近來日本社會は殆んど政治一色にして文學宗教工商等の映は俗に所謂茶を挽きて之に耳を傾くるものなく政治の外に人事の談ず可きものなきが如き有難あるはサテ、窮屈なる事共ならずや斯る窮屈なる政治談の中に獨り其語頭を擧げて芝居の事と談じたれば世人は我輩を嘲者視して痛に驚感するものとならんぞ雖も芝居も人事中の一要素にして其優美温雅なるを以て人心を和む可く其高尚活潑あるは以て志氣を勵す可く完全愉快なる想像的の芝居は不愉快不完全なる政治的の活動と正しく相映照して清季の濁俗を戒むるに足れり且つ此政治一色の社會に我時事新報社に於て今度芝居の評を文藝上より技術上より世人と共に之を譽さんと欲するは孔明琴を軍門に彈するの故智を學ぶものに非ず人事の多岐多端なる一方に獨りて他を忘るゝことなからんが爲め政治論の騒々しき中にも政治以外の事に就き十分その發達を謀りて共々に人文の進歩を致すと其肝要なりと信じたるが故なり斯くて芝居を談ずるに當りて我日本固有の芝居と西洋風の演劇とは長短優劣如何なる可きや此最も普通なる疑問は忽ち我輩の念頭に生ずれども我輩は一言之れに答へて西洋演劇は西洋流の油畫の如く日本芝居は日本畫の如し其用意異にして其趣味亦同じからず到底之を一にして其長短を論ず可らずと云はんのみ其然る所以に就ては自から長説明を要す可ければ今暫く之を論じ我輩が今芝居に對して敢て其繁盛を期せんとするは第一芝居に因りて日本固有の音樂繪畫文藝歌舞等を發育し兼ねて古土風習人情を示して内の風氣を維持するに於て我日本芝居を日本名物の第一とし廻々來る此二様の希望あるが故なり抑も彼の芝居の人情に感して風氣上に大關係あるは今更我輩の多言を要せず英國第一流の俳優ヘンリーアーウチン氏倫敦の新富座でも云ふ可きライオン座の座主にして専らでニュー・クスピヤの時代劇を演じ又事關も衆に認められ倫敦社會に於ては一國の紳士として人に交り大衆下の階級に

於ても毎度その顔を見るとありと云ふの言に芝居は美術の技藝なり感情を動し思想を養ひ風氣を正し世道文明を裨益するものと謂り知る可らず特に快楽の巨師として日常勤苦疲勞の中より人心の生氣を蘇回するの徳を目前に示して想像を實にするが故に人情を感化して高尚の域に進ましむるに最も有効有力なり云々といふしが此の言決して溢美に非ず特に西洋諸國にて芝居を珍重するものは中以上の社會に多きに引き替へ我日本國にては中以下の人々に之を好む者割合に多く聞く所に據るに東京府下の芝居座にて少しく入りの多きものは一箇月ばかりの興行中に凡そ五六萬の見物人あり其大入りの場合に時として七萬に上るとありと云ふれば府下十數箇の芝居座にて一年中の興行に泣笑悲歡或は怒り或は喜び自然に感化さるる者は果して幾百萬あるや殆んど知る可らざる程の數ならん後者の衣紋髪飾は婦女社會流行の源となり其動作進退は移りて家庭の語柄を爲りて影響する所甚だ淺からず若しも我文藝社會に於て意中に名教風氣の重きを含み之を斷るに妙文を以てして梨園の技術に訴へて人心を鼓舞獎勵するものあらんには其功益の大あると果して如何ぞや我輩の傍に企望する所なり又歴史上の眼を以て日本古代の衣冠武器その他宮殿裝飾より日常諸器具に至るまで仔細に考究穿鑿すれば東洋美術の傳來を知り文明の消長を詳にするを得べしと雖も廣く之を世間に示して當時を想像せしむるには芝居の舞臺に實物を飾りて衆の視力に訴ふるに若かず特に風尚氣習等一代の徳義を表するものは形を以て傳はらざるが故に服の巻綴り返して昔を今に再現するものは唯一の芝居あるのみ本朝王代の精神淑女が其才藝の殊絶なる其氣品の温雅なるは野卑の陋俗を戒むるに足れり源平以下代々戰國の軍人が能く其事ふる所に盡して君尊めらるれば臣死すの古訓を履行したるは清季の薄情を痛むるに足れり下りて徳川の時代と爲りても士氣の凛然たる所に至ればますら健男の本色を留めて刀劍鼎鏝の飾を懸せず君の大事に當りては腹十文字に横き切りて毫も自から悔るふとなく戰場に其元を失ふとも敢て其背を見て家門の名譽を懸さるる等、流石に幕閣の大和心は朝日に香ふ山櫻花と見劣りのせぬ美事と立派な天晴れ士族風として一國の元氣を維持したるを見る可し今や世事の進歩に連れて清風薄俗次第に瀾漫し士風の益々下るに關せず社會何れの部分に於ても凛然たる古土風氣を養はすして日々その消滅し去るに任するは國家元氣の消長に關して切に痛惜に堪へざる所なるに然るに愛に芝居なるものあり凛然たる賢士婦女義侠忠義等をして時代々の服裝を着けて今の社會に活現し日々數萬人に面びて眼前其所作を示すを得べしとすれば歴史上より風氣上より芝居の社會に有効なるものと固より言を待たざるなり我輩が世上に芝居改良論ある毎に漫に西洋風の新思想を導くことを好まず日本近古の風尚氣習を踏襲して美術的に其特色を工風す

中にも目から名教の重きを忘れざらんことを所望するは其微意の陰然此邊に存するを見る可きなり(未完)

雜報

○月曜漫筆 英國家風記(續)
第一回 大西洋の航海に准亭居士圖らず異人に逢ふ居士は初めより此老人の俗物ならざるを察しア談敵に爲さんすものと膝摺寄せて言葉を改め

「左ればです英國商業社會の仕組を知りたいのが私の願です御承知の通り日本にては古來國民に西洋文明を導く丈けの下地はあつたのですが三十年前開國の初には凡で西洋の事を知らぬので爾後洋行するものは「西洋とは何ぞや」と云ふ疑問を解く爲め西洋の街遣は斯くにして其家屋は簡樸、何の國は何の國に隣して其大小如何と云ふとを見聞し歸りて之を人に語れば夫れにて先づ西洋諸國と云ふ思想を廣げるの用を爲したので是れが日本人洋行の第一期です併し此期限は過ぎ去りて「西洋人は何事を爲し居るや」と云ふ此疑問を解くのが今の第二期洋行者の義務に爲つたのです
老人「成る程ソコで今でも洋行者が澤山御座います居士「隨分澤山です夫れも第二期洋行に適した人物なら宜しいが丸で洋語も何んにも知らぬ洋行者が金棄てに參るには困ります彼等は山伏が本山參りをすると同じで西洋に來て法螺の種を仕入れて夫れで高聲に吹き立て、御祈禱をマカせる積りでせうハ、ハ、ハ、ハ、」
老人「何處でも人情は同じとで近頃我が英國でも國會議員に擧げられやうと云ふ者などが印度、加奈陀、澳洲等へ旅行する積りがあつて歸りて旅中の奇談を語れば人民は面白半分に聽聞する、法螺の聲の高きものは矢張俗耳に入易く夫れにて撰筆人の人望を取る者が幾人もあるさうですアハ、ハ、ハ、ハ、」
居士「何に私費で旅行ならんか好き次第ですが、ハ、ハ、ハ、ハ、」
老人「保費かた、米國へ參り夫れより墨西哥に遊んで又ニューヨークに立ち戻り二箇月目で今やうやく歸る處です私は年來著述に耽りて旅行する事もなければ俗社會と交はる事もなく云は、方外人ですが米國の學友等が度々來遊を勸めて參るし夫れに近來は病氣勝ちだから英國の所謂三月風に四月雨と云ふ氣候を避けて遙々彼の地へ出掛けることマレ宴會ソレ演説と却つて健康を害するやうの大第、ハ、ハ、ハ、ハ、」
居士「浮世は中々うるさい物です、ハ、ハ、ハ、ハ、」
老人「お掛けで両手をツポンの隙に突き込み目を睨りて暫時無言の姿なり准亭居士は三四週前ニューヨークへフレッド新聞に英國にて雷名轟く某學者がボストンにて演説したる其筆記を載するを見れば「マレ宴會ソレ演説」と云ふ言葉に聞くと同時に若しや此老人が彼の碩學には非ずやと訝かりながら目を放たず、ハ、ハ、ハ、ハ、」
居士「と睨み居りしが此處ぞ此翁の正體を見究むる機會ならんぞ力を込めて
「サテ其御漫遊中には定めて面白き御處も御座りましたらう何なり承りたいのですナ
此時老人は目を見開らさず、ハ、ハ、ハ、ハ、」
居士「何に格別の感觸も御座りませんで凡そ物を觀察するには是れ好らんよりも却て遠方に居る方が

宜いものでも野に立つ讀みては人 equal 等を聞し切に觀察をなす状態を注意せぬもではない例て全體を知遊した米國中の輿地圖の爲めに奔國人の頭髮の數が退々スチユア一云つた時、目的は錢を儲けるに據立て、居いまして又、居て居るが愛、居て唯年貢、社會學の方、と云ひ掛けて、みて併し併し、ヒアノはメ、と思ふばかり物、「また氣分が、す併し貴下、が凡そ他國の、等の家族の、べなるに、の仕事を、内の生活氣、い併し其戸、ので餘程注、類を以て集、なる人家に、するやを、國の家、性質を、いか素性、質を調、と急行列車、出したるは、堂に先登、詰めを爲、西洋人が、老人は一、士は餘餘、老人の正、うに握手、○英國皇太子、仕出來す、英國皇太子、の宮に、は二人、く風を、く身に、